



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	はじめに
Author(s)	小山内, 信智
Citation	国土保全学研究室活動報告書
Issue Date	2019-03-05
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/75474
Type	other
File Information	02-Introduction.pdf



はじめに

平成 25 年 4 月 1 日に北海道大学大学院農学研究院に寄附講座として設置された国土保全学研究室は、平成 30 年度末をもって 6 年間の活動を満了いたします。

本研究室は（一財）砂防・地すべり技術センターが、国土保全に係る実社会に直結した実践的な研究と人材の育成を目的として、北海道大学に寄附を行い、設置したものです。研究室内には、平成 26 年支笏湖周辺土石流災害、平成 28 年台風 10 号による十勝川流域土砂災害、平成 30 年北海道胆振東部地震による土砂災害など、多くの激甚な災害が発生しました。比較的風水害等が少ないと思われる北海道ですが、自然条件が変化している可能性があることを肌で感じられました。

そのような災害に際し、北海道大学流域砂防学研究室、国土交通省北海道開発局、北海道庁、砂防学会北海道支部などの関係機関と連携して、現地調査、復旧方針の検討、研究成果の公表などを行うことで、はからずも設置目的を果たすことになったように思います。

大学院共通授業「国土保全学総論」や国土保全行政ゼミなどによって、公務員や関係企業への人材輩出を、砂防学会北海道支部の活動支援や学会発表、学会誌への投稿によって研究活動の活性化と関係機関の連携強化を、行政職員・建設関係事業従事者、一般市民向けの講演・研修、および、マスコミ取材への対応によって正確な防災知識の浸透を図ることに、僅かながらも貢献出来たのではないかと考えております。

また、平成 27 年度には北海道大学突発災害防災・減災共同プロジェクト拠点の立ち上げにも参画し、大学全体での自然災害研究者の連携強化を図ることができ、これが平成 31 年度からの北海道大学学内共同施設（研究施設）「広域複合災害研究センター」設置に繋がり、本研究室の活動も継続、拡充できることになったと考えています。

本研究室の設置・運営には、北海道大学 丸谷知己前農学研究院長、横田篤農学研究院長、国土保全学研究室 野呂智之前特任准教授、林真一郎特任助教、流域砂防学研究室 山田孝教授、笠井美青准教授、桂真也助教、寄附元である（一財）砂防・地すべり技術センターの近藤浩一前理事長、南哲行理事長（国土保全学研究室前特任教授）、外部講師の皆様をはじめ、多くの方々に多大なるご協力とご支援を賜りましたことにつきまして、ここに深甚なる感謝を申し上げます。

引き続き、北海道大学において我が国、そして世界の防災に寄与できる教育研究体制の拡充が図られることを心より祈念いたします。

平成 31 年 3 月

北海道大学大学院農学研究院
国土保全学研究室 特任教授
小山内 信智